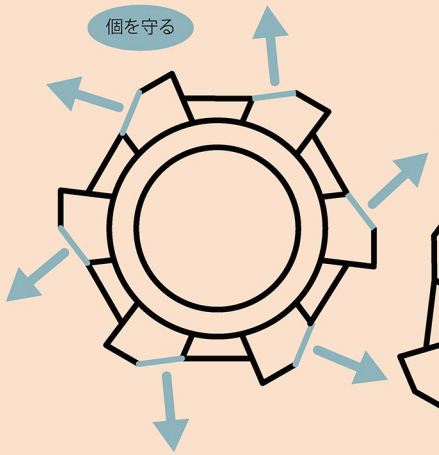
Circle　個と孤を守る弧の空間

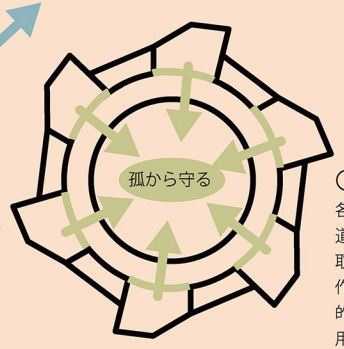
オンラインでのコミュニケーションが発達している現在、
我々の身体性は遠くにいるのに近く感じる、という新たなものへと
変化を遂げている。それゆえに、仮想世界で得られる人々との一体感が
実世界での孤独化を引き起こしているのである。

この集合住宅では、孤独から人々を守り、個人を尊重することで、
新時代の身体性に調和した生活を住民に提供する。
6 つの住宅が円形上に通る道に配置される。
目線が中央に集まるとき、一番遠くにいる住人と目が合い、
遠くにいるのに近くに感じる現象が生じる。
またそれぞれの住宅の住人が円の外側を向く際、その視線は
住宅ごとに交差しないため、個人を重んじた空間となり
人々を包み込む。孤から守り、個を守り、弧で守る住宅である。



○個 (individual) を守る

各ユニットにおいて、一隅の上部二層のみ、斜めに削った。開口が斜め上方向に向かうことで、空方向に個人の空間が半無限的に広がる。



○孤 (isolation) から守る

各ユニットに沿う形で内周道が巡らされ、
道と同じレベルの階は内側に向かって大開口が
取られている。そこにカウンターを設けることで、
作業する住人と道を歩く人の交流が生まれるほか、ガラスを効果的に使うことで、ショーウィンドウのような発信の場としても活用できる。

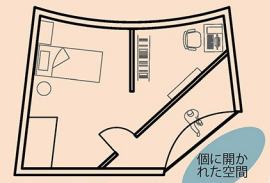
○個のための空間

斜めに切り取られた空間の内部は吹き抜けとなっており、空までつながる心地よい空間となっている。

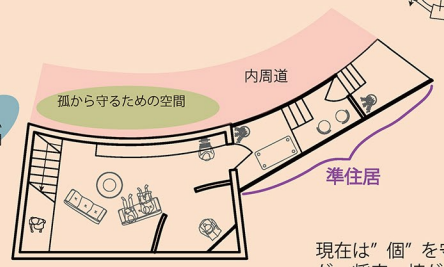
○準住居

全面ガラス張りの３部屋からなっており、屋内２部屋、屋外１部屋となっている。ここは、パーソナルスペースである住居に招かなくとも、他人と共同作業ができたり、交流ができたりする場として活用できる。（ベビーシッター、家庭教師、共同制作、客間など）

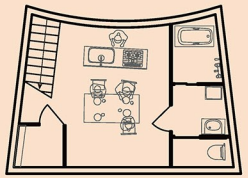
各階平面図（一例）



３階平面図　S=1/200

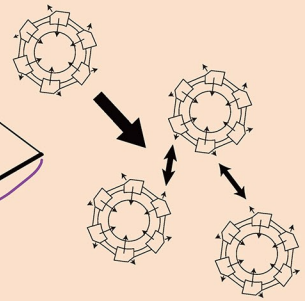


２階平面図　S=1/200



１階平面図　S=1/200

将来像



現在は”個”を守る側となっている外側の空間が、将来、棟が増えていくことで、新たな相互関係を生み出す空間へと変化していく可能性を秘めている。時間とともに、空間の在り方が変わっていき、その時代で求められる”守り”を柔軟に生み出していける集合住宅である。